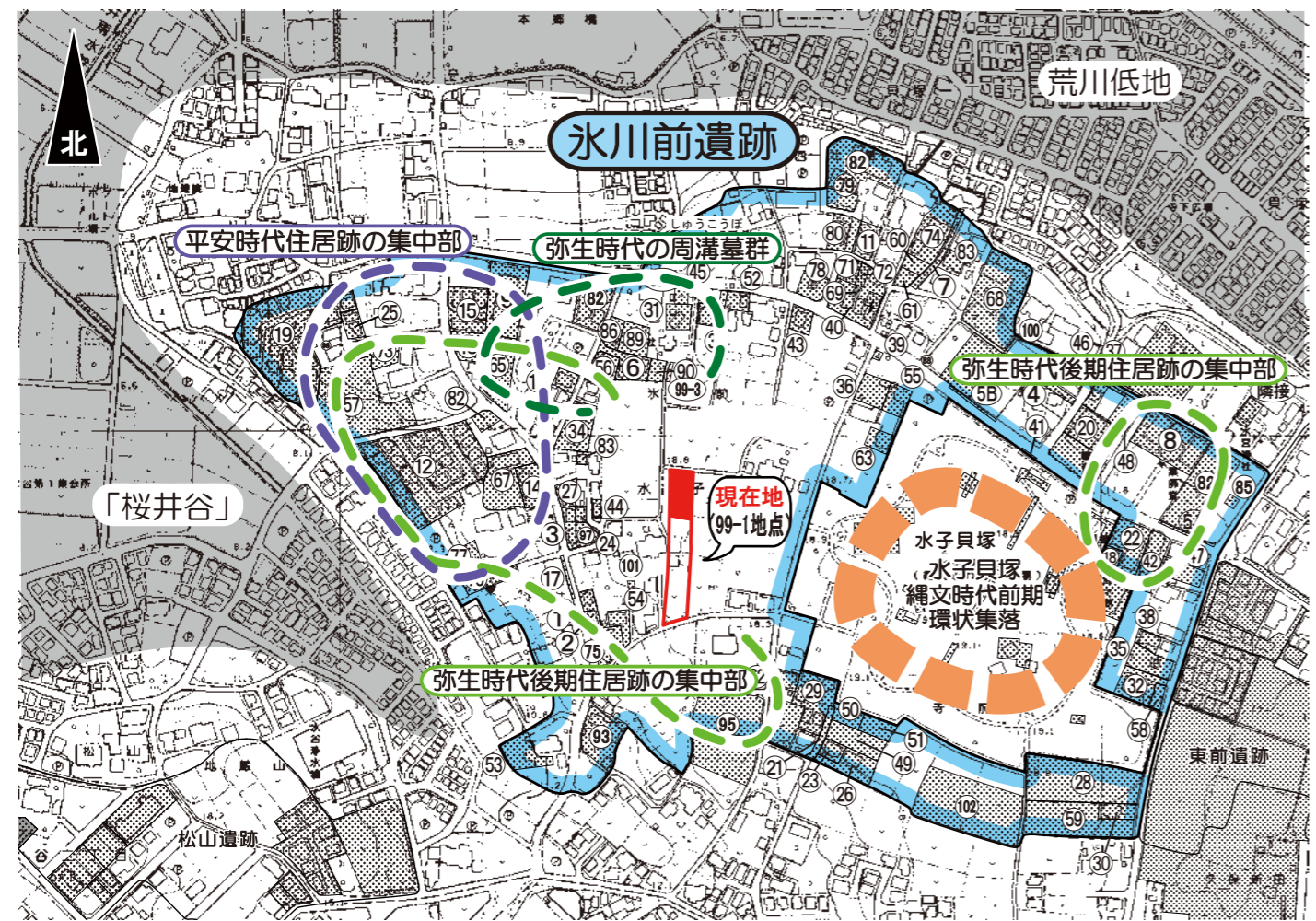


# ひかわまえいせき 氷川前遺跡 遺跡見学会

2023年(R5年)11月18日  
富士見市教育委員会  
富士見市遺跡調査会

## 大字水子の 氷川前遺跡

水子貝塚公園を囲むようにして、大字水子に広がる氷川前遺跡は、富士見江川と新河岸川の合流地点の南側、武蔵野台地の縁に位置しています。旧石器時代から江戸時代に至る、多くの時代の遺構や遺物が見つかっており、とくに平安時代と弥生時代後期～古墳時代初頭ごろ(以下、「弥生時代後期」と表記)の住居跡などが多く見つかることが知られています。



## 氷川前遺跡 第99-1地点

遺跡範囲内での工事に先立つ緊急調査として、氷川前遺跡第99-1地点での発掘調査を行っています。令和5年度の調査範囲においては、弥生時代後期の住居跡が、未発掘のものを含め、17軒に上ると想定されます。遺跡西部で確認されていた弥生時代後期の集落が、遺跡中央付近にも及んでいたことを示す調査結果です。

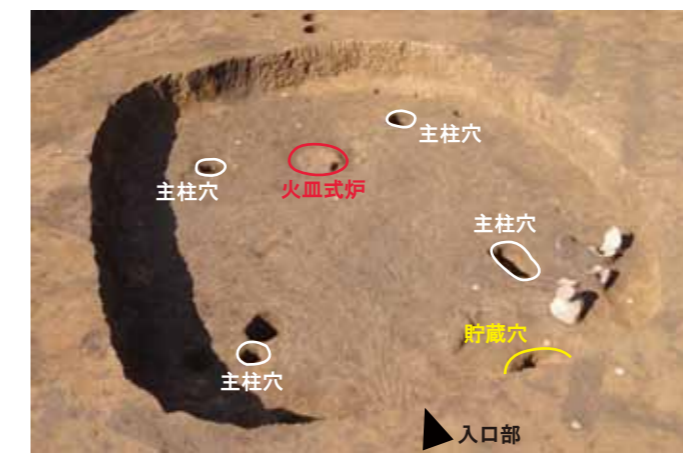
縄文時代前期の住居跡は、水子貝塚の集落と同時期のものです。小規模な貝層が確認されました。水子貝塚の環状集落の外周から120m程離れていますが、どのような関係性を持つのか注目されます。

現時点では発掘中・未発掘の遺構もあり、さらなる成果に期待です。

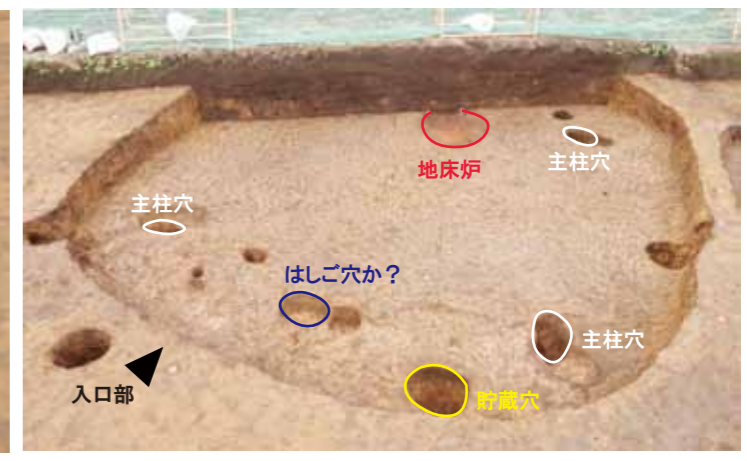
## 弥生時代後期(約1700～2000年前)の住居跡

竪穴住居跡の平面形は円形～楕円形や、隅の丸い方形です。規模は直径5～6mを主体とし、3～4mほどの小型のものから9mを超える大型のものまであります。4本主柱が基本ですが、小型の住居跡などでは柱穴が確認できないものもあります。

炉は直接床で火を燃やす「地床炉」と、粘土を敷いて造られた「火皿式炉」が主です。住居入口部に「はしご穴」、入口脇には「貯蔵穴」が備わっていることもあります。



氷川前遺跡第99-1地点  
3Y(仮称)

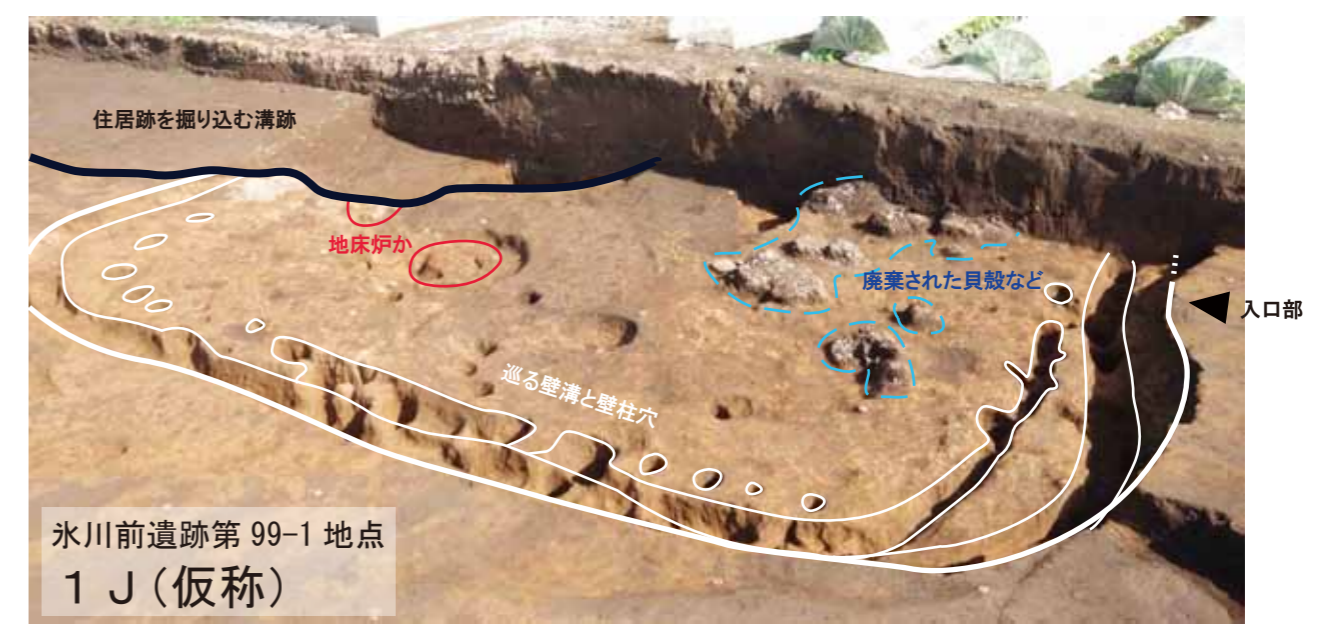


氷川前遺跡第99-1地点  
13Y(仮称)

## 縄文時代前期中ごろ(約5500～6000年前)の住居跡

竪穴住居跡は、平面形を長方形や、長い台形とし、6本主柱のものが基本ですが、長軸と短軸があまり変わらない長さで、4本主柱のタイプもあります。

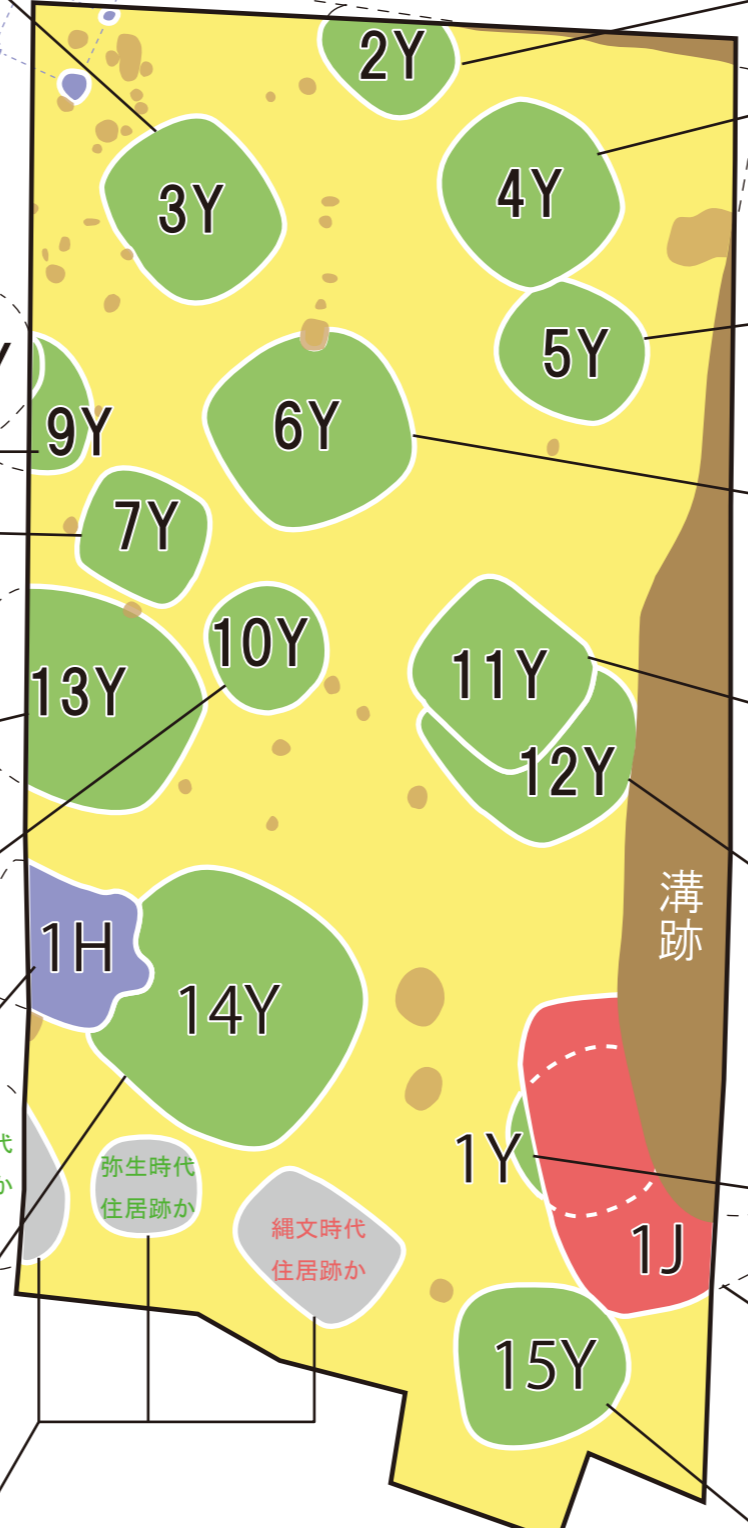
炉は直接床で火を燃やす「地床炉」が主です。住居の壁沿いを巡る多数の小さな「壁柱穴」や、それを繋ぐように掘られた「壁溝」が特徴的です。



氷川前遺跡第99-1地点  
1J(仮称)

竪穴住居跡が廃屋になった跡地は、当時の人々のゴミ捨て場として使われた場合があります。なかでも貝殻が多く廃棄されて積み重なったものは、貝塚と呼ばれます。

氷川前遺跡 第 99-1 地点  
(令和5年度調査範囲)



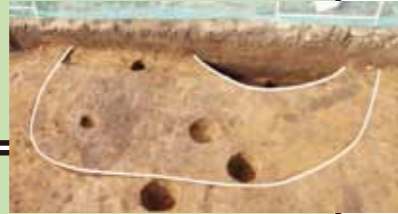
3Y (完掘)

長辺が5m程度の隅丸長方形の住居跡。  
火皿式炉、貯蔵穴をもち、支柱穴は4本。  
住居床面で土器のまとまった出土がみられる。



8Y (完掘)

調査区内ではごく一部のみ確認できる。  
住居跡9Yと重なり、9Yよりも新しい。



9Y (完掘)

竪穴住居跡としての掘り込みは残存しない。  
楕円形か。地床炉をもち、支柱穴は見当たらない。  
住居跡8Yと重なる。

7Y (完掘)

1辺が3.2m程度の隅丸方形の住居跡。  
明確な支柱穴は確認できないが、地床炉と  
貯蔵穴がみられる。



13Y (完掘)

長辺が6m程度の隅丸長方形の住居跡。  
地床炉、貯蔵穴をもち、支柱穴は4本。  
床面の硬化が著しい。



10Y (完掘)

竪穴住居跡としての掘り込みは残存しない。  
地床炉をもち、支柱穴は見当たらない。  
炭化物(コゲ)の付着した土器が出土。



1H【発掘中!】

1辺3.5m程度の方形の住居跡。  
今回の調査では唯一の平安時代竪穴住居跡。  
鉄製の紡錘車出土。現在発掘中。



14Y【発掘中!】

長辺が6.5m程度の住居跡か。  
現在発掘中。  
複数軒の住居跡が重なり合っている可能性もあるか。



未発掘の住居跡

今後の成果が期待されます。

2Y (完掘)

長辺が3.8m程度、隅丸長方形の住居跡。  
地床炉をもち、支柱穴は4本か。  
床面に下半を埋め込まれた土器が出土。



4Y (完掘)

長辺が4.6m程度、隅丸長方形の住居跡。  
火皿式炉、貯蔵穴をもち、支柱穴は4本。  
住居跡5Yと一部が重なる。



5Y (完掘)

長辺が3.6m程度、隅丸長方形の住居跡。  
地床炉をもち、支柱穴は見当たらない。  
住居跡4Yと一部が重なる。



6Y (完掘)

1辺が5m程度、隅丸方形の住居跡。  
地床炉をもち、支柱穴は見当たらない。  
南北方向に並ぶ小土坑群と重なる。



11Y (完掘)

1辺が4.2m程度、隅丸方形の住居跡。  
火皿式炉をもち、支柱穴は見当たらないか。  
住居跡12Yと重なり、12Yよりも新しい。



12Y【発掘中!】

1辺が5.2m程度、隅丸長方形の住居跡か。  
住居跡11Yと重なる。現在発掘中。

1Y (完掘)

1辺が4m程度の隅丸方形の住居跡か。  
明確な支柱穴は確認できない。  
住居跡1Jや溝跡と重なっている。



1J (ほぼ完掘)

長辺が8.8m程度、長方形の住居跡。  
縄文時代前期中ごろ、水子貝塚集落と  
並行する時期。小規模な貝層がある。

15Y【発掘中!】

直径4m程度、円形の住居跡か。  
住居跡1Jと一部で重なる。現在発掘中。

※発掘調査は現在も進行中であり、  
今後、この図に変更が加わることが  
考えられます。

※遺構の名前(「1Y」「1J」等)は、  
すべて調査時の仮称です。

- ...縄文時代の住居跡
- ...弥生時代の住居跡
- ...平安時代の住居跡